

# 厚岸町で採集された多足類およびザトウムシ類

帯広畜産大学昆虫学研究室  
開澤菜月・山内健生

## ● 多足類とは？

多足類は、たくさんの足がある虫です。これらはムカデ類、ヤスデ類、コムカデ類、エダヒゲムシ類の4つのグループに分類されます。日本からは約500種が記録されています。多足類は湿った土の中や倒木の下などで生活しており、森林だけでなく、様々な環境で見ることができます。

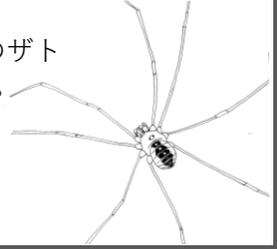
釧路地方での調査はほとんど行われておらず、厚岸町における多足類の記録は今まで報告されていませんでした。



## ● ザトウムシ類とは？

ザトウムシ類は、ずん胴のまめ粒のような体に長い8本の足をもつ虫です。クモの仲間ですが、普通のクモ（真正クモ目）との類縁は遠く、どちらかといえばダニ類に近いことが分かっています。日本からは約80種が知られています。主に森林で生活していますが、北海道では平地の人家近くでも見られます。

これまでに厚岸町から5種のザトウムシが記録されていました。  
(Suzuki and Tsurusaki 1983)



## ● 研究の背景と目的

多足類とザトウムシ類は、地表・地中で生活しており、移動する能力が低いので、地理的種分化や種内の地理的分化があることが知られています。そのため、これまでほとんど調査されていなかった厚岸町の多足類・ザトウムシ類のファウナの解明は生物地理学的に重要な知見になると考えられます。

そこで、厚岸町が多足類およびザトウムシ類のファウナ調査をしました。

## ● 調査方法

調査は2021年6月と10月の2回行いました。原生花園あやめヶ原駐車場付近、愛冠自然史博物館付近、トライベツ川付近、および水鳥観察館周辺の大別川左岸の4ヵ所で調査しました。

多足類とザトウムシ類の採集は、見つけ取り法とツルグレン法（シフターを用いて土壌を採取し、ツルグレン装置で抽出）で行いました。また、2021年6月12日～14日に水鳥観察館周辺の大別川左岸でピットフォールトラップを設置して採集を行いました。採集した多足類とザトウムシ類は大学に持ち帰って名前を調べました。

## ● 研究結果概要

種名未決定の種も含めて、ムカデ類9種、ヤスデ類6種、コムカデ類2種、ザトウムシ類5種を採集しました（図1）。

多足類において釧路地方で記録があった種はムカデ類2種のみであり（高桑 1940, 1941）、厚岸町では多足類の記録が全くありませんでした。本研究により、種名未決定の種が含まれますが厚岸町から17種の多足類（ムカデ類9種、ヤスデ類6種、コムカデ類2種）が初めて確認されました。ヤスデ類とコムカデ類に関しては、綱レベルで釧路地方初記録となりました。

ザトウムシ類においては、先行研究で厚岸町から5種の記録がありましたが（Suzuki and Tsurusaki 1983）、今回の調査でマザトウムシ *Phalangium opilio* Linnaeus, 1758 が初めて記録されました。また、幼体のため種同定できなかった、ブラシザトウムシ属の1種 *Sabacon* sp. も属レベルで厚岸町初記録でした。したがって、厚岸町には少なくとも7種のザトウムシ類が分布するといえます。

種名未決定種においては、分類学的検討を進めていく予定です。今後、別の調査地点や異なる時期に調査をすると、より精度の高い厚岸町が多足類・ザトウムシ類のファウナ解明につながると考えられます。



図1. 採集された多足類およびザトウムシ類。